

【指導案 細案】

1 ペ・ヨンジュンと柳寛順の写真を見る。

身近な韓国のスターと柳寛順^{ユガンスン}の写真を見せ、韓流ブームで韓国が身近な存在になっている反面、韓国の歴史上の人物柳寛順について、自分たちがよく知らないことに気付かせる。

Q「この人達は誰でしょうか？」(2枚同時に掲示)

S「あっ、左はペ・ヨンジュンだ。右は？」

T「左の人はペ・ヨンジュン、みんなよく知っていますね。右の女の人は韓国では英雄としてたたえられている人で柳寛順という人です。」「身近なとなりの国なのに、韓国の歴史についてはみんなあまり知らないのが現実ですね。では、この写真を見てください。」

2 3・1独立運動のレリーフから、大戦後韓国で、独立運動があったことを知る。

レリーフを詳しく見ることで、大戦後の「三・一独立運動」に興味を抱き、学習課題をとらえることができるような発問を工夫する。

レリーフとは何か説明した後に・・・

T：「さて、この写真を見てください。(少し沈黙)この写真はレリーフといいます。韓国の公園にある石碑なんですけど、一体何を描いているんでしょうか？」

T：「この写真を見て どんな人達や様子がわかりますか。」
意見が出なければ、教師からの下記の質問を行う。

Q1：どんな人達がいますか。・・・A：女の人・軍人
倒れた人・人の列

Q2：この女の人がさっきの柳寛順です。行進しているのはどこの国の人でしょうか。・・・A：韓国

Q3：では、軍人は銃を韓国の人々に向けていることになりそうですね。どこの国の軍人でしょうね。・・・A：日本

Q4：柳寛順たちは、武器を持っていますか。・・・Aいいえ

Q5：武器を持っていない柳寛順たちがなぜ銃を向けられるのでしょうか。何をしているのでしょうか。

(自由に言わせてみる。答が出ても出なくても、独立運動が起きたことを確認する)

T：「このレリーフは、1919年、3月1日、日本からの独立を求め、独立宣言を出し、日本に対する独立運動が始まりました。この運動を三・一独立運動といいます。この運動はまたたく間に韓国全土に広がり全国各地で運動が展開されました。(地図を使って確認させる)ではプリントに記入してください。」

T：「では、今日の学習のめあてです。プリントに記入してください。」

なぜこの時期(1919年)に、韓国の人々は独立運動をおこしたのだろうか？

3 3・1独立運動が、この時期に起こった理由を考える。課題に対する答を予想する。

T：「なぜ独立運動が起こったのだろうか？」

生徒には自由に言わせる・

A

日本の植民地だったから
T：植民地だとなぜいけないの
S：日本に苦しめられる
T：たとえばどんなことを
S：土地を取られる。日本語を使わ

せられる

B S : 第一次世界大戦が終わったから
T : どうして、第一次世界大戦が終わると独立運動が起こるの？
S : 東ヨーロッパの独立やロシア革命をまねた。
T 韓国の独立と関係ある位のかな？

T : 今日の授業で確かめてみよう。まず、独立しようとした韓国人々が置かれていた状況を思いだしてみよう。

植民地の人々が独立を求める理由を、当時の生活からとらえる。

同じころ、中国で五・四運動、インドでも独立運動がおこっていることを知る。

年表を使って、この時期に独

写真をもとに韓国併合により植民地にされた人々の生活の様子からとらえることができるような資料を準備する。

T : 「日本が韓国を植民地にした出来事を何といいますか？」

S : 「韓国併合」

T : 「植民地にされた韓国ではどのような事が行われましたか。」

S : 「日本語の教育」

T : 「そうですね。(写真を掲示)韓国が植民地になってからは、国語が日本語となり、同化教育が進められましたね。」

T : 「他に日本が韓国併合の時に行ったことはなかった。」

S : 「土地を奪う」「朝鮮総督府の設置」等

T : 「グラフをみてください。年々土地が奪われていっている様子が見えるよね。この様に日本は韓国を植民地化していったのです。」

第一次大戦後、植民地のインドや列強の侵略に苦しんでいる中国でも同じような動きが見られている事がわかるような資料を準備する。(地図 出来事 地図)

T : 「さっき、日本の植民地となったから独立運動がおきたと言うことだったよね。でもね、実はこの朝鮮の独立運動とは別に、同じ年にアジアの地域で同様の運動が展開されているんだよね。(出来事を紹介)中国では五・四運動、インドではガンジーを中心に不服従運動がおきています。それも同じ年の1919年に…？どうして1919年なんだろう？この時期に韓国も含めて運動を引きおこすきっかけとなる何かがおきたんだよね。それって何だろうね。原因を与えているんだから1919年より前？後？」「そうだね。多分、1919年までにおきた出来事の中で何かアジアの独立運動をおこさせるきっかけとなったはず。それは一体何か…。」

ウィルソンの平和に関する提案や戦後の国際協調の動き、

立運動が起こった理由を考え、発表する。

戦争中のロシア革命などが独立運動に影響を与えていることに気づく。

T:「さて、配布したこの年表の中に、三・一運動も含め、アジアの民族運動を引きおこしたきっかけになった出来事があります。それは一体どれでしょうか？キーワードとして「民族・自由・国」という言葉があります。たぶん個人の意見ではなかなか発表しにくいと思うのでグループをつくり、このキーワードのどれかを使って理由を説明してください。」 <4～5人 一組>

班で考えたりまとめたりさせることで、資料から考察したり、まとめて発表することが苦手な生徒が自分の考えをもてるようにする。各班をまわり必要な支援をする。

それぞれの班の発表を生かし、ほめながらまとめることで、授業に参加できた思いを抱かせるように配慮する。

T:「では、班毎に発表をしてもらいましょう。発表する人は前に出てきてください。」

時間があれば前で発表。なければその場での発表

- ・ウィルソンの 14 か条の原則にある民族自決が独立運動にいかされたから。
- ・ロシア革命を見て、自分たちも独立し、自由で新しい国をつくろうと思ったから。

T:「このアジアの民族運動は、ウィルソンの 14 か条の原則の中にある民族自決という考え方に人々は動かしました。また、ロシア革命をみて、自分たちも独立したいという気持ちが、ちょうどこの 1919 年、第一次世界大戦が終わったこの時期に運動が引きおこされることとなったんだね。それまで、独立運動をおこそうと思ったなら何度も機会はあったはず…。歴史上の出来事が次の出来事を生み出したんだね。」

4 独立運動のその後について知る。

日本政府が運動発生後は、以前の 3 倍の警察費用や 3 倍強の警察官を投入していることから、運動は鎮圧され、支配が強化されていったことを知ることができるようにする。

T:「さて、の独立運動を受けて、日本の政府はどうしたと思う？」

S:「鎮圧！」

T:「うん。植民地をしているんだから当然鎮圧をしようとするよね。(グラフ提示) 鎮圧しようとして今までの 3 倍ぐらいの費用と警官を投入して、この運動をおさえたんだよね。先に紹介した柳寛順もこういう日本の動きで逮捕され、処刑されました。この運動をきっかけに皮肉にも支配は強まっていったのです。この運動自体も植民地である韓国であったという事で、多くの人々は暴動としかとらえてなかったようです。ですが、この運動は日本の鎮圧で終わったのではなく、独立運動は戦争が終わる 1945 年まで続いていくんですね。」

韓国の独立運動に対して別の見方のできる日本人もいたことを知らせるため柳宗悦の「朝鮮人を想ふ」の資料を用意

する。

T：「しかし、多くの日本人が報道の影響などで暴動ととらえていた中で、この運動を暴動ととらえず、自分の見方で判断し、考えを述べた日本人がいた人がいたんです。それがこの人です。」<写真提示>

T：「柳宗悦といいます。彼は朝鮮に渡り、文化を通して朝鮮の人々と交流しました。その中で相手の立場になって物事を考え、見つめることができた人です。彼の考えは、民族にとらわれるのではなく、その中にある本質に触れることでした。ゆえに、アイヌ文化や沖縄の文化にも対等の立場で物事を考え、異質なものも尊重すべきであると主張したのである。さて、三・一独立運動を含めたアジアの運動はあなたの目にどう移りましたか。」

5 本時の学習を通して、これから日本人として他国とどう付き合い合っていくべきかを考え、まとめる。

これから日本人として他国の人々と付き合い合っていく時にどんな視点を持って付き合い合っていくかを考えさせる。(記述式)

T：「では、今日の授業を通して、これから他国の人々とつき合っていくうえでどんな心構えが必要になってくるだろうか。自分の意見を考えて見ましょう。」

S：柳さんのように相手の文化を尊重していきたい。

S：相手の国のことをよく理解して付き合い合っていきたい。

S：日本のやってきたことをしっかり理解して他の国の人々と付き合い合っていきたい。

2～3人位に書いた内容を発表させる。

T：「これから、みんなは世界中の多くの人々と出会っていくと思います。国が違えば文化も違うし、思想にも違いがあります。自分の感覚、つまり日本における感覚でモノを見てしまうと失敗してしまいます。お互いの国で持っているものを理解し、尊重しあうことが大切だと思います。また、人種や国籍が違って一人の人間であることには変わりありません。相手のことを思いやって行動できる人になりましょう。人・国を理解するために歴史の勉強をします。人の生き方を通してその思いをしっかりと、他国の出来事を理解することで他国のことを少しでも理解していけばと思います。これから、多くの国々が歴史の中で絡んできますので、一面的な見方だけでなく多面的にとらえられるようにしていきましょう。」